「ポケットモンスター」新作映画プロット（20221005）BY赤尾でこ

これは「約束」を巡る物語。

[1]７年前の出来事

夜。水力発電所。

激しく咆哮し、対峙するリザードンとカメックス。

それぞれのポケモンの横にはトレーナーがいる。二体の技の応酬。

カメックスのトレーナー（シン）「なぜ…俺たちを裏切った！！」

リザードンのトレーナー（ギル）「“アイツ”は渡さない！！」

カメックスのハイドロポンプ、リザードンの火炎放射が激突する。その衝撃と水蒸気。

こんな状況を楽しんでいるかのようにケラケラと笑う場違いな声。

その主は…幻のポケモン・ミュウだ。

先程の衝撃で崩れた岩壁がミュウに降り注がんとしたその時、

チリーンという鈴の音とともに駆けつけた男(ジジ)がミュウを庇い、ダメージを負う。

「！？」それを見た刹那、ミュウの目の色が変わる。

凄まじいサイコパワーで一帯を攻撃、

発電所は破壊され、膨大な量の水流が辺りを襲う。

濁流の中、ミュウに手を伸ばし、ギュッと抱き寄せる男(ジジ)。

「ミュウ…」

男の意識が失われるのに呼応するかのように、暗転していく画面――

[2]そして、現在

早朝。カントー地方・セキチクシティのはずれにある牧場。

祖父のやっている『育て屋』を手伝う少年・ライト。

幼い頃からたくさんのポケモンと触れ合ってきているので、

ポケモン個々の性格や特徴などを見抜く感覚が鋭い、１５歳の少年だ。

せっせと準備をしているポケモンの朝ご飯も、各ポケモンの好みに合わせて

アレンジしたスペシャルなポケモンフーズだ。

ライト「おーい！みんな〜！朝ご飯食べよ〜〜〜！」

ドドドド！と集まってくるポケモンたち。すぐに朝ご飯に飛びつくかと思いきや…

全員ライトに向かってダイブ！

ライト「おわっ！！」

ライトをギュ〜〜〜〜〜っとしてから朝ご飯を食べるのがこの育て屋の日常。

ポケモンたちに懐かれまくっているライトだった。

ご飯を食べ始めるポケモンたちの横で、ふと空を見上げるライト。

ライト「・・・雨、降りそうだな」

少し離れた場所にある小屋へ向かうライト。

　　　　×　　　　×　　　　×

雨に濡れながら小屋に入ってくるライト。

干草ベッドの上でグースカ寝ているポケモンの姿。

「（寝息）ピカァ〜〜ピカカァ〜〜〜」

ぽっちゃりなお腹が上下に揺れる。そんなお腹をぷにぷにするライト。

ライト「お〜〜〜〜い、おはよう〜〜〜〜」

ぽちゃピカ「（寝息）ピカァ〜〜ピカカァ〜〜〜」

ライト「お、は、よ〜〜〜〜」

目を覚ましたポケモン。それはぽっちゃりと太ったピカチュウだ。

（初代「赤・緑」時代を彷彿とさせるビジュアル）

ライト「お！（起きた？）」

が、すぐに・・・

ぽちゃピカ「（寝息）ピカァ〜〜」

ライト「って寝るんかーい！！」

ぷにぷにお腹をぷにんっとつまんで突っ込むライト。

ライト「ま、朝ごはん抜くぐらいがちょうどいいのかもなぁ、お前のぷにぷにお腹を

どうにかするには。うんうん」

と、持ってきたポケモンフーズを持って去ろうとする。次の瞬間・・・・ゲシ！

不意にぽちゃピカに背中を蹴られて干草の山に頭から突っ込むライト。

ライト「何すんだよっ」

ぽちゃピカ「（ご飯食べるし）ピカピ！」

スゴイ勢いでポケモンフーズを食べ始めるぽちゃピカ。

そんな様子を見ていた祖父。「コイツ、ライトの作る飯だけは美味そうに食うよな～」

まんざらでもないライト。

ぽちゃピカ「ピカチュ〜♪」

さっきまで膨れっ面だったのに今はご機嫌顔、気まぐれで気分屋なぽちゃピカ。

ライトに懐いてるんだか懐いていないんだかもわからない。

そこに鳴るスマホのアラーム。預かっているポケモンを主人のトレーナーに返す時間だ。

雨が降っているしプニ助はここにいな、とライト。

[3]迎えにきてもらうポケモンたち と 迎えにきてもらえないぽちゃピカ

次々とトレーナーのお迎えが来て、引き取られていくポケモンたち。みんな嬉しそう。

仲良くなったポケモンとの別れは寂しいが、ライトがこの仕事を手伝っていて

一番好きな瞬間だ。笑顔でポケモンたちを送り出すライト。

ライト「じゃあ・・・元気で。またな・・・！」

と、ライトとの別れを惜しんで、足元にしがみつくマダツボミ。

そんな様子を見て、トレーナーがライトに提案。

「あの、もしよかったら・・・思い出作りに、この子とポケモンバトルしませんか？」

ライト「えっ」

トレーナーの提案に目を輝かせるマダツボミ。

ライト「俺、ポケモン持ってないんで、ゴメンなさい！」

この理由は半分本当だが、半分嘘だ。ライトはずっと思っていた。

トレーナーってよくわからない。だってボールでゲットしなくたってポケモンとは

一緒にいられるし、こんなに仲良くなれる。本当にバトルって必要？…と。

そんなライトだから、皆のように１０歳で旅立たず、牧場で育て屋を続けてきた。

ライト「その子のツルのコントロール、バツグンですよ！」

育てている間、観察し発見したマダツボミの長所をトレーナーに伝えるライト。

喜ぶトレーナー。マダツボミも褒められて嬉しそう。

ほとんどのポケモンのお迎えが終わるが・・・今日もぽちゃピカに迎えはこない。

いや今日だけじゃない。もうずっと長い間、ぽちゃピカのお迎えは来ていないのだ。

ぽちゃピカを預かったのは祖父。

おおざっぱな性格の祖父は、７、８年くらい前に、口約束でぽちゃピカを預かっていた。

ぽちゃピカについて覚えているのは、預けに来たのは男のトレーナだったこと。

そしてトレーナーが別れ際に言った『必ず迎えに来るから、ここで待っていてくれ』

という約束を信じて健気にずっと待っているということ、くらいだった。

トレーナーにつながる唯一の手がかりは、預けられた時に巻いていたアイテム

「シルクのスカーフ」だ。

通常は白だが、オリジナルの柄がプリントされている珍しい物だ。

ふと気づけば雨はやんでいた。

切なそうに空を見上げるぽちゃピカの姿を見て、ライトは思う。

こんなにずっと待ってるのになんで迎えにこないんだ…。

[4]旅立ち

そんなモヤモヤもあり、いつしかライトの仕事終わりの日課は、

スマホでぽちゃピカのトレーナーの情報集めをすることになっていた。

いつものようにSNSをチェック。

と、トップニュースにシコンシティで開催予定の「カントーフェス」の情報。

大都会であるシコンシティの華やか＆賑やかな写真に目を奪われるライト。

と、そんなライトの背中をゲシゲシ蹴るぽちゃピカ。

なんだよもう、邪魔すんなって。プニ助のために情報集めてるんだぞ。

しかし、ぽちゃピカはライトの持っているスマホの画面を覗き込む。

そこに映っていたのは…例のぽちゃピカが巻いていたのと同じ「シルクのスカーフ」。

ライト「え、もしかしてこの人がプニ助の…！？」

しかし、その写真はすごい人混み。どんな人間がスカーフをつけているのか顔は見えない。

ライト「・・・よし！俺、決めた！」

ぽちゃピカ「ピカ？」

ライト「行こう！！シコンシティに！あっちが迎えにこないんだったら、

こっちから会いに行っちゃおーぜ！」

　　　×　　　　×　　　　×

旅立ち当日。当然、ぽちゃピカもノリノリだと思っていたが、全然乗り気じゃなく、

テコでもその場を動かない。

首に縄をつけて引っ張ったりしながら、何とか連れて行こうとするライト。

（テレビアニメ第１話オマージュ　兼　トレーナーとの約束を守ろうとしている描写）

ここで待っていろと言う約束を守っているんだな・・・とは理解しているが、

「少しだけ！」「一瞬だけ行って、みつかんなかったらすぐ帰ってこよう！」

「っていうか会えるかもだぞ！」など、何度も一生懸命説明。

なんとか伝わり…

ぽちゃピカ「ピカァ…」

ライト＆ぽちゃピカ、祖父に見送られながら、自転車でシコンシティへ出発！

[5]カントー地方・自転車の旅

カントー地方の名所を巡っていくライトとぽちゃピカ。

地元・セキチクから出るのが初めてのライトワクワク。

バトルは避けたいので、草むらでは「虫除けスプレー」を吹きまくる。

それでも遭遇してしまったら、猛ダッシュで逃げたりしつつ…。

ぽちゃピカもなんだかんだで楽しそうな顔。

ぽちゃピカ「（あれ何！？）ピカ！？」

ライト「わかんない！」

ぽちゃピカ「（あれは！？）ピカカ！？」

ライト「わっかんない！」

ぽちゃピカ「（じゃああれは！？）ピカピ〜！？」

ライト「わっっかんない！けど…楽し〜〜〜〜〜！」

ぽちゃピカ「ピカチュ〜〜〜〜〜〜！！」

※台詞を全部活かすというよりは、

メインスタッフクレジット　＆　テーマソングまたはメインテーマBGMゾーン

にすることも含め、検討。

[6]大都会・シコンシティ

シコンシティに到着したライトとぽちゃピカ。

シコンシティは、現代の渋谷が、ポケモンとの共生用にアップデートされたような見た目の街。近年急速な発展を遂げながらも、雨の多い天候を活かし、近隣にある水力発電所の電力で街の膨大な電力を補うなど、環境やポケモンに配慮した

最新鋭の街である。そんなシコンシティの魅力的な街並みを描写。

（街頭モニターなども使いながら、上記の情報を提示する？）

シコンシティに着いたら、街の人にスカーフを見せて持ち主を探そう…

と考えていたライトだったが、甘かった。

想像もしていなかった数の人間に汗たらのライト。

おまけに今日から「カントーフェス」が始まっており（期間は４日間）、

大通りは大勢のトレーナーやポケモンたちで溢れていた。

でも！ここでこうしていてもしょうがない！

とにかく手がかりである「シルクのスカーフ」を見せながら人に聞いて回ろう！

と、スカーフを手にした瞬間…走り込んできたドードリオがスカーフをパクリ！

バシュン！！そのまま時速６０キロで突っ走っていく！

ライト「……え！？」

ぽちゃピカ「ピッッッッッカァ！！！！」

[7]出会い

どうやらカントーフェス内のイベント「ドードリオレース」会場から逃げてきたらしい。

シコンシティを舞台に始まるドードリオ、ライト＆ぽちゃピカのチェイスシーン。

ライト「待て！それ返せっ！」

田舎育ちが故の運動神経の良さ＆

育て屋で身につけた相手のポケモン個々の性質（性格）を見抜く観察眼＆

ぽちゃピカの助け（ピカチュウの覚えない技なども使っているがここでは気づかず）

を駆使して、追いかけるライト。

が、ドードリオもなかなかの手練れ。

一緒に逃げた仲間のドードリオと連携をとり逃げ回る。

そんなドードリオたちと、ライト＆ぽちゃピカの追いかけっこは騒ぎになり、

　　　×　　　　×　　　　×

ふと、その様子を見かける少女。

近くにいた人に事情を聞きつつ「あれって、まさか…」

　　　×　　　　×　　　　×

もうだめだ、追いつけっこないよ…とライトが諦めかけたその時、

少女を乗せたピジョットが、上空からライトの眼前に迫る。

「乗って！」と少女。

お言葉に甘えるライト「何で助けてくれるの？」

少女「困っている子は放っておけないんだよね、私！」

ピジョットのスピードはドードリオを捉え、遂にライトはスカーフを奪うことに成功！

ライト「やった！！」

上空に飛翔していくピジョット。

[8]ライトとアカリ

シコンシティにそびえる高層ポケモンセンタービルの屋上。

街の全景を眼下に眺めながら、対峙するライトと少女。

ライト「スカーフ、取り戻すの手伝ってくれてありがとう。えーと…」

少女「アカリだよ」

にっこり笑うアカリ。

ライト「俺はライト」

握手するライトとアカリでーー

タイトル「劇場版ポケットモンスター　ライト（仮）」

[9]トレーナーの行方

時間経過。

（ぽちゃピカは、フシギソウなどのアカリのポケモンたちと遊んでおり、

以下の会話を聞いていない状態）

アカリ「ところで、そのスカーフなんだけど…どこで手に入れたの？」

ライト「え、どこって…」

と、自身が身につけている、ぽちゃピカと同じプリントの「シルクのスカーフ」を

見せるアカリ。驚きのライト。

アカリがSNSで見たシルクのスカーフの持ち主だったのだ。

ライト「よ、よかったぁ、会えた…！」

事情を話すライト。自分やぽちゃピカのこと。

市販していない珍しいプリントなので、その持ち主ならきっと、

ぽちゃピカのトレーナーのことを知っていると思い、探していたこと。

アカリ「そのスカーフの持ち主なら、よく知ってるよ」

その人は今どこに？ぽちゃピカを返したいんだ

（何なら一言文句言ってやりたいんだ）とライト。

アカリ「持ち主は私の兄、ジジ。それは誕生日にお揃いで私がプレゼントした物」

ジジに会わせてくれとライト。が…アカリの表情が曇る。

アカリ「それは無理。だって……お兄ちゃんは死んだの、７年前に」

驚きのライト。

[10]シン

アカリ、ライト、ポケモンたちはポケモンセンターの中へと移動、

当時の資料映像を見ながら、詳しく説明。

アカリ「今から７年前…この街を支える水力発電所が破壊された時に起った水害に

巻き込まれ、お兄ちゃんは死んだの」

そこに、カントーフェスの準備に追われるシンが通りかかる。

「アカリ！？それと…？」

アカリがライトにシンを紹介。

かつてカントー地方で名を馳せた有力ポケモントレーナーであり、アカリの師匠であり、そして亡き兄・ジジの親友でもあった男。

シン「ライトくん、君はミュウを知っているかい？」

「いいえ…一度も世話したことないですね」

呆気にとられるシンとアカリ。すぐに大笑いに変わり、

「君は面白いね。少し昔話に付き合ってくれるかい？」

シンは、ジジがなぜ死んだのかについて、順を追って話し始める。

シンは５歳のころ、シコンシティに引っ越してきた。

なかなか馴染めず、ガキ大将にからかわれて困っていたシンを、正義感の強いジジと、

その友達のギルが助けてくれた。３人はポケモンを通じて、すぐに親友になった。

ある日、近くの森を探検していると、ジジが幻のポケモン・ミュウらしき、

謎のポケモンを発見する。

シンとギルも駆けつけるが、謎のポケモンは夕陽の彼方に消えていった。

ほんの一瞬の出会いだったが、それが３人の人生を決めることになった。

大人や他の友達は信じず、馬鹿にしたが、３人は、

『いつか必ずこのジジのモンスターボールでミュウをゲットしよう』と約束し、

その証としてモンスターボールに３人の名前を刻んだ。

やがて１０歳になり、ジジはフシギダネ、シンはゼニガメ、ギルはヒトカゲを相棒に、

トレーナーとしての旅に出た。

３人は世界各地を回ったが、ミュウの手がかりは掴めなかった…。

それから９年が経ち、３人はそれぞれ一流のトレーナーとして名を馳せていた。

そんなある日、ふいにミュウを手にするチャンスが訪れた。

ジジがシコンシティの付近にある水力発電所でミュウを目撃したのだという。

連絡を受けた際、シンもギルも他の地方にいたが、急いで駆けつけることに。

数日後。シンは急いで発電所へと向かったが、そこで待っていたのはジジではなく、

あの日の約束を破り、ミュウを独り占めしようと、

リザードンとともに襲ってきたギルだった。

シンはカメックスで受けて立ち、壮絶な戦いになった。

しかし、そのバトルの余波でミュウは暴走。

そのサイコパワーで水力発電所が破壊され、下流にあったシコンシティも被害を受けた。

確かにシンの相棒カメックスの甲羅には火傷の傷跡がある。

シン「ギルの裏切りがミュウの暴走を生み、ジジは…」

ライト「ギルという人はどうなったんですか？」

ライトの質問に、アカリが答える。

ギルは駆けつけた街の警察によってその場で捕まった。

シンの供述や、ギル自身がそれを否定しなかったことから、

「ミュウを手にするために、シコンシティの要である水力発電所を破壊した」として、

現在も警察に捕らえられたままだ。

ジジの遺体は今も見つかっていない。

絶対に生きていると信じ、必死に行方を捜したアカリとシンだったが、

７年経った今、ようやく気持ちの整理がついてきたのだと言う。

アカリ「お兄ちゃんは困っているポケモンや人がいたら、まず体が動いちゃうような人だった。私はいっつも心配が絶えなかったけど、自慢のお兄ちゃんだったんだ」

それを聞き、感づいたライト「だからあの時、助けてくれた…？」

アカリ「うん。お兄ちゃんはもういない…だったら私が…」

『亡き兄の様に生きる（代わりになる）』

それがお兄ちゃんに誓った私の約束だと、グッと手を握りしめるアカリ。

いつの間にかアカリの傍らにきていたフシギソウ、アカリを心配そうに見つめる。

シンは今でも、ジジとの約束を守るためにミュウを探している。

ミュウの目撃情報があれば、忙しい身ながらすぐに駆け付け、調査をしている。

運営に関わる「カントーフェス」でも、各地方の有名トレーナーを集めたエキシビジョンバトルや、ライブコンサートなど様々なイベントの中の一つとして、

「ミュウの集い（仮）」というイベントを企画している。

「ミュウは本当に会いたいと心から願う人の前にだけ現れる」という言い伝えがある。

イベントを開いて世界中のミュウファンをシコンシティに集めれば、

ミュウが本当に現れてくれるかも知れない。

３人の名前が刻まれたモンスターボールを見せるシン。

ギルの名前だけは削り取られていたが、シンは今でもこのボールを使って、

ミュウをゲットする夢を諦めていないのだ。

シン「それが、俺とジジとの約束だからだ」

シンの語るジジの名に反応するぽちゃピカ。「ピピ（ジジ）？」

（ぽちゃピカは、ジジのことだけ固有で「ピピ」と呼ぶなど、検討）

[11]地底への誘い

時間経過。公園のベンチに座っているライト＆アカリ。

ライト「…」

シコンシティに来れば、トレーナーに会えるかも、

ぽちゃピカを喜ばせてあげられるかも、と思っていた。でも、実際は…。

ジジの死を、ぽちゃピカにどうやって伝えればいいかわからず悩んでいるライト。

そこにぽちゃピカがやって来て…「ピピ！ピピ！！」

何のことやらさっぱりなライト。

ぽちゃピカは、ライトのポケットから「シルクのスカーフ」を取り出し、

「ピピ！ピピ！！」と続ける。

それでジジの事を言っているのだとわかるライト。

良い伝え方がわからぬまま、あっちにいるんじゃない？　などと適当な事を言ってしまう。

ライトの指差す先に、野生のディグダを発見したぽちゃピカ。

面白がり、ディグダ（モグラ）叩きで遊んでいるぽちゃピカを見ながらため息のライト。

アカリ「難しいよね。でも、こーゆーのはさ、誤魔化したりしないで、

はっきり伝えてもらったほうがいいな。少なくとも私はそう」

自分も経験した辛い出来事＆想い。だからこそのアドバイス。

でも、人それぞれだから、あの子に一番いい方法で伝えてあげたいよね、とアカリ。

と、次の瞬間、姿が見えなくなるぽちゃピカ。

ライト「えっ！？」

ディグダの開けた穴の中に落ちてしまったのだ。

ライト「ちょっ、えっ！？」

アカリ「何やってんの！助けなきゃ！！」

慌ててライト＆アカリもディグダの穴に飛び込む。

　　　×　　　　×　　　　×

ディグダの穴の中は、ライトたち人間が普段は見ることのない世界、

ポケモンが見ている世界だった。

ぽちゃピカを追いながらも、不思議な色の石（進化の石の原石？）、ポケモンの化石などに胸躍らせ、冒険気分で進んでいく。

大きな岩で行き止まりになっているかと思ったら、それはイワーク！

隙間をすり抜けて先へ行ってしまうディグダとぽちゃピカ。

眠りを妨げられて怒り気味のイワークが通せんぼをするので、

フシギソウで受けてたつアカリ。

ライトにとっては初めて間近でみるポケモンバトル。

アカリとフシギソウのコンビネーションは強い。

だけど、どこか違和感を感じるライト。

（ここでは真相に到達しないが、兄の戦い方のトレースをしようとして、自分らしい

バトルが出来ていない、というのが違和感の正体です）

イワークに勝利、そして通してもらう。

[12]ジジのポケモン図鑑

ライト「お～！！」

ぽちゃピカとディグダを追ってライトたちが辿り着いたのは、

街の地下に造られた、巨大貯水槽。

窪地にあるシコンシティの水害対策や、水力発電所にも関係がある場所らしいが、

詳しいことはわからないとアカリ。

最終的にディグダが行き着いた先は、コラッタやサンド、イシツブテなど、

数匹の野生ポケモンが暮らす場所だった。

流れ着いてきた物や、街で拾った物を集めてガラクタだらけの住処。

都会に暮らす野生ポケモンたちはたくましく、人間にも物怖じしない。

すぐにポケモンに好かれるライトと、それに驚くアカリ。

すっかり仲良くなった頃、ぽちゃピカ何かに反応し、ガラクタの山を掘っていく。

すると、そこにあったのは古びた「ポケモン図鑑」。

ぽちゃピカ「ピピ！ピピ！！」

その形状（一部欠けているとか、ステッカーでカスタムしてあるとか）にピンときた

アカリ「貸して！！」

図鑑を起動させると、なんとそれは行方が分からなくなっていた、

ジジのポケモン図鑑だった。

行動履歴を辿ると、発電所の事件のあったあの日以降も、移動していたことが判明する。

アカリ「お兄ちゃん…」

死んだと諦めていたが、もしかして兄・ジジは生きている！？

涙が溢れそうになるアカリだったが、すぐにハッとしライトに見つからないよう、

誤魔化しながら、フシギソウをボールから出す。

「フシギソウ！またお兄ちゃんに会えるかもしれないよ！！」

大喜びするフシギソウ。だが、すぐに元気がなくなる。

アカリ「フシギソウ…？」

フシギソウ「（アカリが心配）」

一方ライトも、ジジにぽちゃピカを返すことが出来るかもしれないことを喜んでいた。

「良かったな、プニ助！」

アカリは図鑑をより詳しく解析するため、シンに預けることにする。

しかし、その前に一箇所だけ行きたい場所があった。

[13]ギル

警察施設。面会室で待つアカリとライト＆ぽちゃピカの前に現れたのは、

ボサボサのヒゲや髪の中で眼光だけがギラギラと鋭いギルだった。

ギルにジジの図鑑を見せるアカリ。

「お兄ちゃんのポケモン図鑑よ」

この端末を解析すれば、あの事件の日以降のジジの足取りがはっきりする。

それどころか兄は生きていているかもしれないし、兄の居場所の手がかりが掴めるかも

しれない、とアカリ。

黙って聞いていたギルだったが、“ある事”に気付き目を見開く。

ギル「なぜ、ここに…」

アカリ「お兄ちゃんが導いてくれた。貴方は何も語ってくれなかったけど、

これで真実に辿り着ける」

グッと拳を握りしめるギル。その目には何やら決意の炎。

（ギルが気付いたのは、ポケモン図鑑関連ではなく、アカリの背後にいる「ぽちゃピカ」）

[14]ポケモントレーナーとは？

夜。ジジ探しを続けることになったライトとぽちゃピカは、

アカリの自宅に泊めてもらう事に。

ジジの部屋を使わせてもらうライト。色々な事があってクタクタ。

そんなライトをゲシゲシしながら、ぽちゃピカは「ピピ！ピピ！！」とうるさい。

本当の事を言わなきゃ…と思いつつも、「また明日にしよう！」などと誤魔化し、

リビングへ逃げるライト。

不貞腐れていたぽちゃピカだったが、かすかに残るジジの残り香に包まれながら、

安心したように眠りにつく。

　　　　×　　　　×　　　　×

リビングにはアカリの姿はない。

が、奥で何やら音がする。音の方へ向かうライト。

その先では、アカリがポケモンたちとポケモンバトルの特訓をしていた。

アカリ「ライト、うるさかった？ゴメンね」

ここは元々アカリとジジの両親が経営していたポケモントレーニングジムだった。

（深く語りませんが、アカリの両親は早逝し、ジジが旅を打ち切って街に戻り、

アカリの親代わりをしていた…というイメージです）

特訓は寝る前のルーティーンなのだという。

アカリとポケモンたちとの特訓を見ているライト。

ピジョットやその他のポケモンとのコンビネーションはバツグン、

ただしフシギソウとのコンビネーションに違和感を感じるライト。

イワークとバトルしている時と同じだ。

思わずその違和感を口にするライト。

アカリ「やっぱり鋭いねライトは…」

自身のポケモントレーナーとしての悩みを吐露するアカリ。

ピジョットたちはアカリ自身がゲットしたポケモンだが、

フシギソウはジジが遺していき、アカリが受け継いだポケモンだ。

アカリ「お兄ちゃんみたいに、フシギソウに上手に指示を出してあげたいけど、

全然上手くいかないんだ」

言葉を理解しているのか、していないのか、悲しそうな顔のフシギソウ。

「それは違うんじゃ…」とライトが言いかけたのを遮るように、

アカリ「ライトはさ！何でポケモントレーナーとして旅立たなかったの？」

ライト、自身のポケモントレーナー観を語る。

トレーナーってよくわからない。育て屋をしていた自分としては、ボールでゲットしなくたってポケモンとは一緒にいられるし、仲良くなれる。本当にバトルって必要？…と。

アカリ「なるほど、そういう考えもあるんだ。それも否定しないけど、私は、ゲットはお互いをより認め合えた証だと思っているし、一心同体になってバトルするのって、人間だけじゃなくて、ポケモンにとっても嬉しい、楽しいことなんだって信じてる」

ライト「…なんか、ちょっといいね、それ」

アカリ「な～んて、半人前の私に言われても…だろうけど。ライトってポケモンを見る目があるし、すごく好かれるし、トレーナーとしてのポテンシャルは高いと思うよ」

ライト「そうかな～」

アカリ「プニ助とはいいコンビになると思うけどな」

ライト「アイツはジジさんに返すの」

アカリ「それなんだけど、私、お兄ちゃんがピカチュウゲットしたって話…

（ルーティーン終了のアラームなど鳴って）あ、もうこんな時間だ！寝なきゃ！！」

[15]ミュウ

真夜中。それぞれの部屋で熟睡しているライト、アカリ。

　　　　×　　　　×　　　　×

シコンシティ上空。

月夜に飛んでいるのは…ミュウ！

何かを探すように、街のあちこちを飛び回っている。

そんな中、闇に紛れて遊ぶ野生ポケモンたちに遭遇。

ワクワクするミュウ。一緒に遊ぶ。

遊びの中で、ついテンションが上がってやりすぎ…シコンシティの道路をグニャリ！！

…と曲げてしまうミュウ。

目をまん丸くするポケモンたち。ミュウはケラケラと笑う。

　　　　×　　　　×　　　　×

警察施設。ギルの目が鋭く光る。（脱走しようと考えている）

[16]二日目

朝ご飯を食べているライトとアカリ。

アカリ「シン兄からメッセージが来てて、図鑑の解析にはもう少し時間が掛かるって…」

ライト「そっか。待つしかないね」

アカリ「でもお兄ちゃん、もし生きているのなら、何で帰って来てくれないんだろう…」

そこに寝ぼけて起きてくるぽちゃピカ。

アカリがポケモンフーズを出す。が、ぽちゃピカはライトをゲシゲシ！

ライト「はいはい、わかったよ・・・」

キッチンを借りてポケモンフーズにオリジナルのアレンジを加えるライト。

ライトの作った朝ご飯をご機嫌でモリモリ食べるぽちゃピカ。

アカリ「なるほど、胃袋を掴んでるってわけね（笑）」

と、アカリのスマホがニュースを受信。

シコンシティのど真ん中。一夜にして変な形に曲がってしまった道路が発見され、

フーディンの仕業？いや幻のポケモン・ミュウではないか？と、

騒ぎになっているのだという。

ミュウという言葉に反応するライトとアカリ。

ジジがかつて発見し、ゲットを夢見ていたミュウ。

時間もあるし、何かジジの行方を探るヒントがあるかもしれないと、

現場に行ってみることにする。

[17]ギルの逃亡

アカリの案内でニュースの現場に向かうライト＆ぽちゃピカ。

昨日は巨大なビルばかりに目がいったが、シコンシティには自然のままの川や木々が

溢れており、野生のポケモンたちとの共生が実現している。

ライトの周りには、不思議と野生のポケモンたちが集まってきて、すぐ仲良くなれる。

アカリ「やっぱ向いてるって、トレーナー」

ライト「もういいって、それは」

などと話していると、大勢の警官隊が出動し、街は騒然となる。

「グンニャリ道路ってそんなスゴイ事件なの？」と呑気なライトだったが、

アカリのスマホにシンからの連絡が入る。

シン「ギルが…施設から逃亡したらしい」

アカリ「え！？」

街には非常線が張られ、フェスは一時中断せざるを得ないとシン。

そうこう言っている内にも、通りから人が消え始める。

ギルは何をするかわからない。危ないから家に帰っていろ、とシンに言われるアカリ。

しかしスマホを切った後、ライトに先に家に戻っているよう言うアカリ。

ライト「って、アカリは？」

アカリ「もうあの人には誰も傷つけさせない…！」

ギルをこの手で捕まえるべく、ひと気のない街へと走っていくアカリ。

ちょ、それは危ないって！！と、慌ててアカリを追いかけるライト＆ぽちゃピカ。

[18]ギルの死

アカリを探して回るライト＆ぽちゃピカ。

しかし、街外れのひと気のない工事中のビルで男を見かける。逃走中のギルだ。

ライト「見つけちゃいけない方、見つけちゃった…！！」

しかし、驚いたのはむしろギルの方だった。

ギル「どうして、お前がここにいるっ！？」

ギルは恐ろしい目でライトを睨みつける。

ギル「牧場に帰れ」

ライト「俺のことを知ってる…？」

と、そこにシンとアカリがやってくる。

ギル「来たか…」

と、ビルの中に逃げ込み、施錠をし、バリケードを作るギル。

ライト「二人とも何でここが？」

シン「ギルから、呼び出されたんだ」

そこに、警察も合流。

ビルの中に入ろうとしたその時、ビルの屋上からギルの声が響き、一同見上げる。

ギル「全ての罪は、俺自身の命をもって償おう」

シンは叫ぶ。「ギル、ミュウは、ミュウはどこだ？」

ギル「……さらばだ」

その言葉をきっかけにビルが大きく倒壊を始める。

あそこにいたギルが到底生きているとは思えない。

言葉にならないライト、アカリ、シン。

　　　　×　　　　×　　　　×

そんな様子を物陰から見ている視線がある。フードを目深に被った謎の男だ。

謎の男「…」

その場から去ろうとしたその時、チリーン…鳴り響く鈴の音。

　　　　×　　　　×　　　　×

鈴の音に反応するぽちゃピカ。アカリとシンもハッと顔を上げる。

ぽちゃピカ「ピカ！！」

鈴の音の方へ走り出す。

ライト「え！？どこいくんだよ！？」

訳が分からないまま追いかけるライト。

が音の主には追いつけず、見失ってしまう一同。

アカリは言う。さっき、微かに鈴の音が聞こえた、あれはお兄ちゃんが身につけていた、

「いやしのすず」の音によく似ていた。

ぽちゃピカ「ピピ！ピピ！！」

アカリ「今、お兄ちゃんはこのシコンシティにいるのかもしれない」

ライト「探そう！ジジさんを」

アカリ「でも、どうやって…？」

シン「ミュウだ…」

ライト・アカリ「えっ！？」

シン「これを見てくれ」

シンが差し出したスマホの画面には、カントーフェス運営からのメッセージ。

『昨日深夜、シコンシティで外出していた何人かのトレーナーのスマホロトムの

図鑑アプリに、未知のポケモンとのエンカウントを示す表示が現れたとの情報あり』

というもの。

シン「例の道路の事件もあるし、偶然とは思えない。ジジがこのタイミングで街に帰って来たことも含めて、全てはミュウに繋がっている気がしてならない」

ジジを探すため、ミュウを探そう、となる一同。

　　　　×　　　　×　　　　×

夜。アカリの家の屋上。

ジジについて語り合うライトとぽちゃピカ。（膝に乗っている）

ライト「なぁ、ジジさんてどんな人だったんだ？」

ジジを想うぽちゃピカ。

触れている部分から、ぽちゃピカの記憶の一部がライトに流れ込んで来る。

（特性：シンクロの拡大解釈）

　　　　×　　　　×　　　　×

ぽちゃピカ目線でのジジ。その姿。

ジジ「大丈夫か？　オマエ、ケガしてるじゃないか。ちょっと待ってろ…

　　　（きずぐすりなど使って）…ほら、これで大丈夫だ！！」

　　　　×　　　　×　　　　×

現実に戻ったライト「今のは！？」

寝てしまっているぽちゃピカ…。

[19]ミュウ・フィーバー

翌日。テレビのニュースなどで以下の情報を見せる。

シコンシティの警戒は倒壊したビルの近隣区域を残し一旦解除され、

カントーフェス（３日目）は警戒をしながらも、再開することとなった。

一方、未知のポケモンとエンカウントしたトレーナーの情報は一晩で拡散し、

「フェスのサプライズ企画かも！？」「いや、本物のミュウだ！」

「あの曲がった道路も、あんなことができるのはミュウしかいない！」

と盛り上がっていた。ミュウを求めるトレーナーでにぎわうシコンシティ。

朝ご飯を食べているライトとぽちゃピカ。

ライト「こんなにミュウを求める人々が集まっているなら、本当にミュウが姿を現すかもしれないな」

ぽちゃピカ「ピカ…？」

そこにアカリがやって来て宣言。

アカリ「突然ですが、これに出ます！！」

見せたスマホの画面には、「ポケモン ゲットレース（仮）」の公式サイトが。

ライト「どういうこと？」

レースの商品は何と、どんなポケモンでもゲットできるという、

あの「マスターボール」らしい。

これからミュウを探すにあたって、ぜひ手に入れておきたいとアカリ。

頑張って！とライト。

アカリ「何言ってんの。ライトとプニ助も出るんだからね」

え！？と驚きのライト＆ぽちゃピカ。

[20]ポケモン ゲットレース（仮）

シコンシティだけでなく、カントー地方を舞台にしたイベント。

参加は二人一組のチーム制。

トキワのもり、おつきみやま、イワヤマトンネルなどの場所から一つを選び、

制限時間内に、ポケモンたちをゲットしていく。

ポケモンの種類ごとに隠しポイントが設定されており、その合計点で競う。

アカリ「ライト、準備はイイ？」

ライト「やるしかないでしょ！」

アカリ＆ライトチームの基本的な作戦は…

バトル＆ゲットはアカリが担当、ポケモンに詳しいライトは参謀役としてアドバイスを

するというもの。

【このイベントを通じて描きたいこと】

＊ライトが、トレーナーがモンスターボールでゲットすることの良さや絆を実感

　＊アカリが「兄の代わりになろう」と無茶をして怪我を負い、途中リタイアの危機

　＊アカリの代わりに、ライトとぽちゃピカの即席コンビが挑戦するが、

思いのほか活躍し、今後ナイスコンビになりそうな予感

　＊シンが「ぽちゃピカは水が苦手」と気付く（みずタイプと対峙など？）

＊最終的には優勝せずに惜しくも準優勝などでも良いし、

優勝したが景品はマスターボールじゃなくてマスターボール型トロフィーでした、

みたいながっかりオチでも良い（マスターボールは持たせない方が良さそう）

アカリ「やっぱ、いいコンビじゃん！」

まんざらでもないライト＆ぽちゃピカ。

そこにシンから連絡が入る。

シン「すぐにポケモンセンターに来てくれ…」

[21]破壊された図鑑

ポケモンセンター。

そこには、破壊されたジジのポケモン図鑑と、壁面に描かれたメッセージがあった。

ライト「…俺はミュウとともにある…おまえたちと二度と会うことはない…ジジ…か」

アカリ「なんでお兄ちゃんはこんなことを？」

シン「わからない。だが…」

既に解析済みだった部分として、発電所の事件後、セキチクシティ付近まで移動したことはわかっていた。水害でジジが死んでいないことは確からしい。

シン「このメッセージが本物なら、俺とジジの約束は果たされたということかもしれない。肩の荷が下りたかな…」泣き笑いの様な表情のシン、去って行く。

「でも、それじゃぁ…」とぽちゃピカの方を見るライト。

ぽちゃピカ「ピピ！ピピ！！」

ジジがもう迎えに来ないことを言えないライトは、

どうにかぽちゃピカに諦めさせようとする。

ライト「一度、牧場に帰ろう。ジジさん探しは、また今度にしてさ・・・」

しかし、ぽちゃピカは納得しない。するわけがない。

ぽちゃピカ「ピピ！！ピピッ！！！」

ライト「やめなよ、ここにはいないって」

ぽちゃピカを強引に抱きしめるライト。その腕の中で暴れるぽちゃピカ。

ぽちゃピカ「ピピ！！ピピッ！！！」

ライト「やめろ暴れるなって…」

暴れ続けるぽちゃピカ。

ぽちゃピカ「ピピーーーーッ！」

どう伝えたらいいかわからない上に、ぽちゃピカに気持ちが伝わらないもどかしさ。

ぽちゃピカはさらに暴れ、その不可抗力でライトの頬が傷つく。

ライト「痛っ…」

一瞬大人しくなるぽちゃピカ。

ライト「…もう勝手にしろ…」

ぽちゃピカを離し、

ライト「もう俺は…知らない！！」

叫んでしまうライト。

ぽちゃピカ「っ…」

ググッとなりながらも、ジジを求め、走り去っていくぽちゃピカ。

アカリ「いいの？」

ライト「…」

[22]シンの記憶

ポケモンセンターにある自室に戻ったシン。一人過去に思いを馳せる。

シン、ジジ、ギル、幼い日から事件の直前までの写真を眺めながら…

「ジジ、なぜ直接言ってくれない…約束は守られたのか…？」

シンの頭がズキリと痛む。

思わず髪を掻き上げると、その額には大きな傷跡が隠れている。

シンはあの事件で頭部を損傷した。またそれ以来記憶の欠落に苦しんでいた。

その欠落を埋めようとギルを訪ねたこともあったが、何も語ってはくれなかった。

再び頭痛がし、フラッシュバックに襲われるシン。

ーー燃えさかる森。襲ってくるギルのリザードン。

ーー溢れ出る大量の水。

シン「くっ…」

断片的に過去の記憶が蘇り苦しむシンを、心配そうに見守るカメックス。

そこに運営スタッフが報告に来る。

例の倒壊したビルの跡地からはギルの遺体は見つからなかった。

またその倒壊の原因は、構造を支える重要な柱のみが、ほのおポケモンの火炎放射で

焼き切られた計画的なものだった。

計画…一つの可能性に気付いたシン。

シン「ギルの…ギルの押収品については？」

スタッフ「ああ、ご存知でしたか？（押収品はギル自身が盗み出した上で逃亡したとの

ことです）…シンさん！？し、失礼します！」

シンのあまりに恐ろしい表情に、そそくさと退出するスタッフ。

腕で机の上の写真を薙ぎ払うシン。怒りの咆哮。

「くそっ！！」

[23]謎の男の正体

トボトボと歩く、ぽちゃピカ。

いつの間にか天気は愚図ついてきており、雨のしずくがぽちゃピカにポタリ。

それを嫌がり、屋根のある場所を選んで移動する。

　　　　×　　　　×　　　　×

一方ライトはシコンシティを走り回っている。

後悔してぽちゃピカ探しに出ていたのだ。

「もちろん、私も手伝うよ！」とアカリも手分けして探してくれている。

そんな時、別々の場所（だが物理的には近い）にいるライト、アカリ、ぽちゃピカに、

同時に、あの特徴的なチリーンという鈴の音が聞こえる。

「！？」

鈴の音の元に向かう、二人と一匹。

鈴の音は、フェス会場から少し入った裏路地から発せられていた。

最初に辿り着いたのは、ライト。そこにいたのはフードを目深に被った謎の男だ。

ライト「ジジさん…ですか？」

謎の男「…」

そこにかけ込んで来るアカリ。「お兄ちゃん！！」

謎の男は応えない。

雨が強くなってくる。視界は悪い。

アカリ「お兄ちゃん、お兄ちゃんなんでしょ！？」

ジリジリと近付く、アカリ。そしてライト。

フードに手をかける謎の男。

その時、シンからアカリのスマホに着信。

ジジが今目の前にいると伝えるアカリ。だが…

シン「違うんだ、アカリ…そいつは…」

シンの言葉と呼応するかの様にフードを剥ぐ男。

雷鳴の中、浮かび上がるその顔は……

シン「…ギルだ」

驚きのアカリ、ライト。

（頭髪を整え、髭を剃ったギルです）

[24]ギルとの対決

怒り心頭のアカリ。

アカリ「お兄ちゃんのふりをするなんて…最悪だよ、ギル！！」

ギルは応えない。

アカリ「なんでっ…あんなことっ…なんで！！」

色々聞きたいことが溢れ出す。

しかし、アカリの欲しい答えをギルは一つもくれない。

感情のままにギルにバトルを仕掛けるアカリ。

（どさくさで、シンとの通話は切る）

アカリ＆フシギソウVSギル＆リザードン。

さらに、タイプ相性だけでなく、ライトの感じる例の違和感もあり、

バトルはギル＆リザードンが圧倒的に優勢。

ライトは優位でありながらなぜか辛そうな表情でバトルしているギルが気にかかる。

なぜそんなに辛そうな顔でバトルするのか…？

あの人、ギルさんには何か理由があるのでは？

ギル＆リザードンに全然敵わず、顔を歪めるアカリ。

ギル「…お前はバトルが分かっていない」

アカリ「私にそれを教えてくれるはずだった兄さんを奪ったのは、あなたでしょっ…！」

再び憎しみの目でギルをみるアカリ。

悲しそうなフシギソウ、リザードン、そして苦しそうなギル。

その時、アカリ・ギルの間に走り入ってくるライト。

アカリ＆ギル「！？」

ライト「やめてよ…こんなの、なんか…違うよ…」

アカリ「邪魔しないで！」

俺には、トレーナーのことはよくわかんないけど、でも…

ライト「アカリ言ってたよな？一心同体になってバトルするのって、人間だけじゃなくて、ポケモンにとっても嬉しい、楽しいことだって信じてるって」

今の自分たちの顔、見て見ろよ、とライト。

その言葉を聞き、水たまりに映る己の顔を見るアカリ、ギル。

そこに映っているのは、憎しみに歪んだ顔、苦痛にまみれた顔。

アカリ＆ギル「っ…」

膝をつくアカリ。

アカリ「ギル…ううん、ギル兄。本当の事を話して…」

ライトの言葉、そして真っ直ぐに自分を見つめるアカリの瞳に観念したギル。

ギル「ジジ…すまん…」

[25]現場に向かうシン

強い雨が降るシコンシティ。

アカリとの通話を切り、急ぎアカリやギルの元に向かう、移動車中のシン。

現場近くまで来ると、雨を避けて軒下にいる、ぽちゃピカに気付く。

シン「？？？」

ぽちゃピカは水が苦手だという話を思い出す、シン。

大丈夫かい？手を差し伸べるシン。

ぽちゃピカ「ピカ？」

その時、大粒の雫が落ちて来て、避けるぽちゃピカ。

抱きとめるシン。その触れている部分から、記憶の一部がシンに流れ込んで来る。

（特性：シンクロの拡大解釈）

　　　　×　　　　×　　　　×

ぽちゃピカ目線。

濁流の中、必死に手を伸ばし、ギュッと抱き締めてくれるジジ。

「大丈夫だ…心配ない…」

　　　　×　　　　×　　　　×

現実に戻ったシン「ジジ！？」

ぽちゃピカ「ピカ？」

シン「まさか…そんなことが…」

推理を巡らせるシン。

ジジがセキチクシティに行った理由は？

ジジがピカチュウをゲットしたなんて話は聞いたことが無いが何故？

そして一つの回答に辿り着く。

シン「…そういうことか」

その目が怪しく光る。

※ここは、シンの記憶のフラッシュバックをきっかけに、ぽちゃピカの真実に気付く、

という流れでも可能。

[26]ギルの告白

真実を語りだすギル。

　　　　×　　　　×　　　　×

親友だったジジ、シン、ギルは、子供の頃、ミュウをゲットしようと約束した。

７年前、ジジはトキワのもりにある井戸に集まるピカチュウたちを見つけた。

ジジが井戸に近づくと逃げていくピカチュウたち。

井戸の中を覗くと、深い水底で、でっぷりと太ったピカチュウがケガをして動けない

状態になっていた。

アカリがトレースしている様に、ジジは困っているポケモンを放っておけない人物。

自分の危険も省みず、ぽちゃピカを救うジジ。

そんなジジに心を開いたぽちゃピカ。自分の正体を明かす。

ジジ「オマエは…まさか…ミュウ！？」

　　　　×　　　　×　　　　×

ライト「ちょっと待って！あのプニ助が…ミュウ！？」

アカリ「信じられない…」

ぽちゃピカがミュウだったと知って驚くライトとアカリ。

ギル「続けるぞ…」

　　　　×　　　　×　　　　×

ジジはミュウを人目から隠すべく、たまに使っていた水力発電所近くの小屋に移る。

そして、今はそれぞれ世界各地を旅している親友、ギルとシンに連絡を取る。

二人とも驚いたが、すぐに向かうと言ってくれた。

ジジにとっても幼き日の３人の約束は大切だ。

約束のモンスターボールでミュウをゲットしようとするジジ。

だが、数日をともに過ごすうちに、ミュウが他のポケモンと違って、

人間の手に収まるような存在ではないと思い始めた。

ミュウも、すぐにボールを投げてくる他の人間と違うジジを好きになっていく。

（ここは、ミュウの今後を左右する様な幸せな数日として描きたい）

（ジジの作るポケモンフーズも美味い、もしくはライトとは逆にクソマズイ、とか）

先に小屋にやって来たのはギルだった。

「ゲットするのはやめよう」とジジが伝えると、驚きつつも、

お前がそう思うなら、とギルは笑った。

ミュウのためにポケモンフーズを買いに行くジジ。ミュウとギルは留守番。

その時、シンが小屋を訪れる。

やってきたシンに、「捕まえるのはやめよう」と伝えるギル。

しかし首を横に振るシン。これはジジの考えだ…と言っても信じない。

ギルが約束を破り、ミュウを独占しようとしていると感じたシンは、

少年の時の約束を果たすことを優先し、ミュウを奪おうとカメックスで襲いかかった。

仕方なしにリザードンで応戦するギル。

（以下の一連は冒頭アバンのシーン）

激しく咆哮し、対峙するリザードンとカメックス。二体の技の応酬。

シン「なぜ…俺たちを裏切った！！」

ギル「“アイツ”は渡さない！！」

カメックスのハイドロポンプ、リザードンの火炎放射が激突する。その衝撃と水蒸気。

こんな状況を楽しんでいるかのようにケラケラと笑う場違いな声。

その主は…幻のポケモン・ミュウだ。

先程の衝撃で崩れた岩壁がミュウに降り注ごうとしたその時、

戻って来たジジがミュウを庇い、ダメージを負う。

「！？」それを見た刹那、ミュウの目の色が変わる。

怒りに我を忘れ、暴走したかのように凄まじいサイコパワーで一帯を攻撃、

発電所は破壊され、膨大な量の水流が辺りを襲う。

濁流に飲まれる一同。

強く頭を打つシン。（これが原因で記憶障害を引き起こす）

暴走しているミュウを安心させようと、自分の危険を省みずに、抱きしめるジジ。

ミュウ、なんとか正気を取り戻し、サイコパワーを発揮して水流をコントロール。

シコンシティが水没するのは食い止められた。

（死傷者はゼロ）（自責の念もありミュウは水嫌いになった）

頭を打ち、意識を失ったシン。ジジとギルは相談する。

事故の原因が全て自分にあると知ったら、責任感の強いシンのことだ、自責の念に

潰されてしまうだろう。自死を選んでしまうかもしれない。

それを救う方法はただ一つ、すべてを自分たちの所業にすることだ。

ギルがジジからミュウを奪おうとして暴走を招いた。

ジジは水害で死んだことにして、ミュウをどこか遠くに隠せば、誰にもバレる心配はない。

セキチクシティの方に、心当たりの牧場がある、とジジ。

ジジ「すまないギル…必ず助ける…」

ギル「１０年もすりゃ出られるだろ。期待しないで、待っているよ」

ジジはミュウをぽちゃピカの姿に変え、その場を去る。

その後、ギルは駆けつけた警察に捕まり、シンは病院に収容された…。

（以下の一連はギルも知らない真実/補足用）

ジジは、ミュウの隠し場所として、セキチクシティの外れにある、評判の良い育て屋へ

向かう（ライトの実家）

「必ず迎えに行くから待っていて欲しい。決して人間に正体を明かさない様に」と

約束して、ぽちゃピカをライトの祖父に預けた。

（ミュウは一連の事故で腕に軽い傷を負っており、きずぐすりを吹きかけた上で、

ジジの持っているシルクのスカーフを巻いて処置をしていた）

その後ジジは、捕まっているギルを救い出すため、シコンシティに戻ろうとするが、

その途中、川で野生のポケモンを助けようと身を挺して救ったジジ。

そこで不幸な事故が起こり…亡くなってしまった。

（ポケモン図鑑は川で流され、最終的に地下貯水池に流れ着いた）

警察施設の中で「身元不明の男が野生ポケモンを助けて死んだ」という小さな記事を読んだギル。男の特徴は書かれていなかったが、ギルにはそれがジジだとすぐに分かった。

じつにジジらしい行動だからだ。

もう誰も助けに来ない、そう悟ったギルは覚悟を固め、捕らわれの身となった…。

※真相告白シーン、長いので、描写する箇所や、その方法は一考。

[27]新たな約束

驚きの真相に、言葉もないライトとアカリ。

兄が死んだことは悲しい、でも兄は最も兄らしく死んだと知ったアカリ。誇らしい。

アカリ「やっぱり、私がお兄ちゃんの代わりにならなきゃ…」

再び強く決意する。

フシギソウ「…」

ライトの興味はやはり、ぽちゃピカだ。

ライト「鈴の音は、やっぱりプニ助を保護するために？」

ギル「ああ。アイツならジジの鈴に気付くと思ってな。結果オマエら二人が釣れちまったが…」

ギルとしては、ジジとの約束である「シンを守ること」「ミュウを守ること」を貫きたい。

そのためには「シンにミュウを渡すわけにはいかない」のだと強く語る。

「なるほどな…」

三人が声の方を向くと、そこにはシンの姿。

ギル「シン！？いつから…」

シン「たった今、さ。俺にミュウを渡すわけにはいかない…か。そのために事故を起こし、ジジを殺し、死を偽装し、ジジのフリまでして、ご苦労なことだ…」

ギル「…」

シン「だが残念だったな…ミュウはすでに俺の手の中だ」

カメックスを呼ぶと、肩に乗っているのは、ぽちゃピカ！

ライト・アカリ・ギル「！？」

なぜそいつがミュウだと？とギル。

図鑑から判明した行動履歴、いるはずのないピカチュウ、そして水だ…と推理の根拠を

語るシン。

仮にミュウだとするなら捕縛することなんてできないぞ…とギル。

シン「カメックス、アクアリング！」

回復技のアクアリングを転用した、水の牢獄だ。

ぽちゃピカが嫌がっている隙に、シンのポケモンが「さいみんじゅつ」で眠らせる。

良いことを思いついた…とシン。

「明日〇時、地下貯水槽に来い」と言い残し、去ろうとする。

行かせない！アカリのフシギソウ、ギルのリザードンがカメックスに攻撃。応戦。

水蒸気爆発。

ぽちゃピカが連れて行かれてしまう。焦るライト。

ライト「プニ助、絶対に俺が迎えに行くからなーっ！」

水蒸気が晴れた後、ぽちゃピカやシンの姿は無かったーー

[28]シンの計画

移動車内。シンは、眠るむぽちゃピカを見ながら考える。

シン「全てはジジとの約束を果たすため…」

[29]カントーフェス・最終日（４日目）

翌日。カントーフェスの最終日、４日目。

バトルアリーナでは、各地方のレジェンドたちによるエキシビション・マッチが行われている。（ダンデVSキバナ？　スカーレット・バイオレットの人気者？）

ライブコンサートも。（歌キャラ、歌ネタある？　プリンが「うたう」で観客が眠る？）

特設スタジアムには、「ミュウの集い（仮）」に参加すべく、続々と全世界のミュウファンが集まってきている。

[30]出陣

アカリの自宅。トレーニングスペース。

ライト、アカリ、ギル。そしてフシギソウやリザードンなどのポケモンたち。

必ず、ぽちゃピカを救い出そう。

それぞれの決意表明。心を一つにする一同。

（アカリは、自分を犠牲にしてしまいそうなくらい、痛々しいまでにポケモンのために！兄にならなきゃ！という描写）

[31]地下貯水槽

地下貯水槽にやってくる一同。

（地下貯水槽の真上、地上にあるのが特設スタジアム、というイメージ）

地下貯水槽には、昨日の大雨による水が溜まっていて、以前来た時とはまるで違った印象。

シン「待っていたよ」

貯水槽・外周のキャットウォーク的な部分にいるシンたち。

ギルたちは、ぽちゃピカを離せと警告。

しかしシンは反論する。

シン「最初に約束を破ったのはそっちだろう・・・」

シンにとって何より大切なのは、最も幸せだった子供の頃、３人で交わした約束なのだ。

（こういった発言から、シンの記憶が断片的に戻り始めていることが分かる？）

こうなったら仕方ないと、シン＆カメックスに挑むギル＆リザードン。

タイプ相性で押し切り、ギル＆リザードンを吹っ飛ばすシン。

シン「あわてるなよ…。お前にはこの約束を見届ける義務がある…」

するといきなり、ぽちゃピカを貯水槽に投げ込むシン。

ライトたち「！？」

さらにカメックスに対し、技・うずしおを指示。

（カメックスは渋々、辛そうな感じを出す）

あの事故の日の濁流が再現されたような状態。

ぽちゃピカ「ピカ…ピカ…」

苦しそうなぽちゃピカ。

ライト「やめてくれ…アイツは水が…」

ギル「そうか、あの日のトラウマか…」

シン「必要なのは恐怖じゃない…怒りだ。あの日の様に怒り、バトルに、この俺に

向き合うんだ、ミュウ！その真の姿を現せ！！」

次第にぽちゃピカの中で、恐怖は怒りに変わっていき…

ぽちゃピカ「ピ…ピカァ！！！！！！！！」

ぽちゃピカの鋭い怒りの眼差しがシンに向けられる。

シン「まだ足りないか…それでは大好きなジジについて教えよう」

ぽちゃピカ「ピピ…」

シンが何を言おうとしているかを察するライト。

ライト「やめろ、やめてくれ！！」

シン「ジジは死んだ。もういない。お前を迎えにくることは…永遠にない！」

ライト「やめろーーーっ！！！」

ジジがこの世から消え、二度と迎えに来ることがないことを理解するぽちゃピカ。

ぽちゃピカ「ピカァァァァァ…！！！」

絶叫のぽちゃピカ。

その姿が光り輝き始め、やがて収まると、そこに現れたのは…ミュウだ。

[32]ミュウの逆襲

怒りに燃えるミュウ。その咆哮。

シン「そうだ、これで良い。これが最も効果的な方法だ」

カメックスを含む、自分の６体のポケモンに一斉攻撃をさせるシン。

６体１。激しいバトルシーン。

それでも抑えきれないミュウ。

徐々に弱っていくシンのポケモンたち。

シン「これが…ミュウか！」

地下貯水槽を支える柱や壁がダメージを受けていく。

貯水槽に棲みついていた野生ポケモンたちが一斉に逃げていく様子。

そんな時、逃げ遅れた野生ポケモンの悲鳴を聞くライトたち。

それは、かつて地下貯水槽でポケモン図鑑を見つけた際に出会った、

あのディグダ、コラッタ、サンド、イシツブテたちだった。

水流で流されそうになるポケモンたち。ピンチが迫る。

「！？」

[33]アカリの進化

アカリ「お兄ちゃんはそうした…だったら私もやらなきゃ！！」

自分の危険を省みずに、ポケモンたちを救おうとするアカリ。

ライト「無茶だ、アカリ！」

アカリ「無茶でも、やるしかないの！！」

水流に向かって飛び込もうとしたその時…

アカリ「え！？」

フシギソウのツルがアカリを引き留めていた。

アカリ「どうして…？」

フシギソウがツルを使ってアカリのモンスターボールを取り、

中からピジョットたちが出てくる。

アカリを真っすぐ見つめるポケモンたちの眼差し。

アカリ「…手伝って、くれるの？」

深く頷くポケモンたち。

アカリ「よし！」

アカリとポケモンたちの作戦開始。

ピジョットの翼や、フシギソウのツルを活かした見事なコンビネーションで、

野生ポケモンたちの救出に成功。

アカリ、フシギソウに向かって、

「私、今までお兄ちゃんならどうするのか、お兄ちゃんみたいにならなきゃ、ばっかり考えてた。でも妹の私は、自分のことは二の次でポケモンを助けたりするお兄ちゃんが心配で心配でたまらなかった。フシギソウやみんなに、同じ想いをさせちゃってたんだね。お兄ちゃんへの憧れは変わらないけど、私は私、やっとそれがわかった。待たせちゃって、ゴメン」

フシギソウ「（嬉しい）」

その目から涙が一粒落ちて、フシギソウにポタリ。

その瞬間、進化の光を放つフシギソウ…フシギバナに進化！

ライト「アカリ、すごいよ…」

その時、ミュウとシンのポケモンがバトルをしている方向から巨大な爆発音。

「！？」

シンのポケモン６体が、完膚なきまでに叩きのめされていた。

[34]シンの執着

完敗だ…。だが、それでもミュウをゲットすることに妄執するシンは、

約束のモンスターボールを投げる！

一度はモンスターボールが閉まりブルンと回転を始めるが、弾け飛び壊れる。

ボールから飛び出し、さらに怒りを増したミュウの暴走を食い止めるため、

ギル＆リザードン、アカリ＆フシギバナが立ち向かう。

どうしても約束を諦めることが出来ないシン。

シン「何か、何かないのか…何か…」

カメックスが立ち上がり、そんなシンを支える。

そこへライトがやって来る。「もう…やめましょう」

シン「ライトくん…」

ライト「俺、この街に来るまで、ポケモントレーナーって全然わかんなかったんです」

シン「…」

だって、育て屋の自分からすれば、モンスターボールでゲットしないと絆が育まれないなんて嘘だと思っていたし、一緒にいるだけで楽しいし、バトルって本当に必要？って思っていたのだと。

ライト「でもこの街に来て、色々な事があって、色々なトレーナーやポケモンと出会って、ポケモントレーナーっていいなって思ったんです」

シン「…」

ライト「貴方がどんなに強くて、人に尊敬されていようが、ポケモンの気持ちを無視したこんなやり方をするのは、本当のポケモントレーナーじゃない。それだけはわかります」

そんなライトの言葉に一瞬反応するシン。

それでも約束を果たすため、とミュウをゲットすることに執着する。

そしてカメックスに技の指示を出すシン。

しかし、カメックスは動かない。

シン「何をしているカメックス！早く…！」

それでも、カメックスは動かない。

シン「カメックス！……！？」

カメックスが立ち尽くし、涙を流していることに気付くシン。

激しい動揺。今までどんな時も寄り添い、共にいてくれたカメックスの涙。

自分は約束を大事していたのだろうか、それともミュウが欲しかったのだろうか？

幼かったあの頃めざしていたポケモントレーナーの姿とは？

シンの思考が駆け巡る。

その時、いつもの頭痛が起き、シンの記憶の欠落したピースが戻り、蘇る。

ついに真相を思い出したシン。

ジジの願い、ギルの反対を押し切り、ミュウの暴走を招いたのは自分だった。

そして、ジジとギルの行動は全て親友である自分、シンを思ってのことだったとわかる。

シン「あ、あぁ・・・」

崩れ落ちるシン。

[35]御三家

ライトはシンの元を離れ、飛び交う瓦礫で傷つきながら、

ミュウの元へ辿り着こうと必死に前に進む。

ライト「あいつは…守られない約束に傷ついていた…」

ボロボロになっても前に進むことをやめないライト。

ジジさんが死んでいると本当のことをなかなか言えず、苦しめてしまった。

ライト「絶対に、絶対に…行かなきゃ…！だって今度は俺が、俺自身がプニ助と約束したんだ…！」

暴走中のミュウには、近づくライトの姿はライトに見えていない。

自分に害をなす嫌な人間に見えている。

ミュウ「（来るな）・・・！！」

と放たれる大技。

ライトに直撃・・・かと思われたがライトは無事。

アカリ「大丈夫！？ライト！！」

アカリ＆フシギバナが盾になってくれた。

ミュウは空中に浮かんで攻撃をしてくる。近づくには…

ギル「乗れ、ライト！！」

ギル＆リザードンが現れ、その背に乗り、ミュウへ向かう。

目と鼻の先まで近づいたところで、

ミュウが最大級のシャドーボールを放つ。

これを食らったらひとたまりもない。

その時、激しい水流がシャドーボールの軌道を逸らす。

シン＆カメックスのハイドロポンプだ。

ギル「シン、お前…」

シン「ギル、すまない…俺は…」

ギル「全ては終わった後だ。７年ぶりの美味い酒でもおごれや！」

シン「ああ…」

アカリ＆フシギバナ、ギル＆リザードン、シン＆カメックスが協力して、

ライトをミュウの所へ送り出す。

アカリ「今だよライト！行って！！」

ポケモンと人が一つになっている姿（ポケモントレーナー）はキラキラと輝いて見えた。

ライト「ありがとう、みんな！！」

ミュウの元へ大きく跳躍するライト。

[35]ライトとミュウ

ついにミュウの元に辿り着き、抱きしめるライト。

ミュウ「！！」

大きく目を見開くミュウ。

ジジに抱きしめられた暖かさを思い出すミュウ。

その記憶がライトに流れ込んで来る。

（特性：シンクロの拡大解釈）

　　　　×　　　　×　　　　×

ぽちゃピカ目線。

ミュウの中のジジとの楽しく優しい思い出。

ジジとの約束と別れ。

この物語を通じてのライトとの楽しい思い出。

そして、ライトがしてくれた「必ず迎えに行く」という約束。

（ぽちゃピカは、まどろみながらきちんと約束を聞いていた）

　　　　×　　　　×　　　　×

現実に戻ったライト。

ライト「遅くなってごめん。待たせてごめん。迎えに来たよ…！」

小さな子供の様にボロボロと涙を流すミュウ。

[36]大崩壊

ミュウの暴走の果てに、地下貯水槽を支える柱は次々と破壊されていた。

連鎖的に地上にある特設スタジアムも崩壊する大事故になってしまう！

アイコンタクトをするライトとミュウ。

ニッと笑うミュウ。頷くライト。

　　　　×　　　　×　　　　×

地上。特設スタジアムでは、地盤が崩落を始めていた。

近隣でエキシビション・マッチに参加していた有名トレーナーたちは、

「ミュウの集い（仮）」に集まっている多くのミュウファンの避難誘導に力を合わせている。

避難しているミュウファンの子供が「助けて、ミュウ」と祈りをささげると、

それに呼応するように、老若男女すべてが、ミュウを心から求めた。

その瞬間、サイコパワーを纏ったミュウ＆ライトが、大地を貫き、

一気に地上へ飛び出してくる。

「祈りが通じた！」「ミュウだ！」「本物だ！」「すげぇ！」

本当にミュウが現れたことで、人々は歓喜し、失っていた勇気を取り戻す。

崩れゆくスタジアムに降り注ぐ瓦礫を、さまざまな技で避け＆破壊。

（ライト＆ミュウの、ポケモンバトルさながらの爽快＆かっこいいアクションを見せる）

特設スタジアムの避難が完了し、安心したのも束の間、特設スタジアムに隣接する、

高層ポケモンセンターの倒壊が始まる。

破壊してしまって良いのか？中に人やポケモンは？

有名トレーナー「ポケモンセンターの避難は完了しているそうだ。遠慮なく、ぶっ放せ！」

（的な内容。キャラクターに合わせて調整）

頷くライト。飛び出して、

ライト「いっけぇーーーーーーーーーーーー！ミュウ！！」

全身全霊で叫ぶライト。

ミュウ「（応える鳴き声）！！！」

心を一つにしたライトとミュウ。最大のパワーを発揮！

強力な技で建物を破壊するミュウ。

ライト「やった！！」

しかし、最後の一撃でパワーを使い過ぎてしまい、意識を失うミュウ。

飛行が保てず、落下していくミュウとライト。

地上に出てきていたアカリ、ギル、シン「危ない！！」

彼らとポケモンがいるところからでは救出は間に合わない。

アカリ「ライトーーー！！」

その声に反応し、ミュウが目を覚まし、ライトへ向かう！

最後の力を振り絞ってライトの体を浮かばせ・・・アカリたちの元へ届けて救出。

一方、完全に力尽き、落ちていくミュウ。

追いかけようとするライト。

しかしそこに爆発！爆炎に阻まれミュウを追うことが出来ない。

ライト「ミュウーーー！！」。

悲しい叫び声が響き続けたーー

[37]エピローグ①　アカリ、シン、ギル

ライトのモノローグなどで、皆のその後を説明。

アカリは少し髪が伸びている。

フシギバナとのコンビネーションでジムリーダーのグリーンを倒し、

８つ目のバッジをゲット。

亡き兄の写真に向かい報告。

そんなアカリにギルが言う。

ギル「ジジは、いつまでもフシギバナにならないそいつを面白がってたよ。こいつは何かを待ってるみたいだ！ってな。待ってたのは…アカリのその一歩、だったんだな」

無理やり兄になりきろうとしていたアカリはもういない。

自分らしく、一歩踏み出したアカリの頭をなでなでするフシギバナがいたり。

ギルはというと、アカリの自宅となっているポケモントレーニングジムを復活させて、

頑張っている。スパルタで人気らしい。

シンは己の罪を認め、収監された。

（故意ではないので、減刑されるはずだ…くらいの救いは入れておく？）

[38]エピローグ②　ライト

そして俺はーー

今回の出来事を経験して、いろんなポケモンやトレーナーに出会った。

ポケモントレーナーが何のかは、まだわからない。

それでも、トレーナーになってみたい、確かにそう思った。

旅立ちの日。

ライトの進む道の先にいたのは・・・ぽっちゃりと太ったピカチュウの姿。

ライト「！ …ははっ」

ぽちゃピカ「ピカピカ！！」

モンスターボールをグッと握り締め・・・人生で初めてのゲットをしようとボールを

投げるライトの姿でーー

（SE：一回揺れで・・・カチッ！！）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【終わり】